

昭和60年度以降の共通第1次学力試験における高等学校の
「職業科」に係る出題科目について(案)

昭和57年3月29日

国立大学協会
入試教科目改訂専門委員会

さきに国立大学協会から発表された「昭和60年度以降の共通第1次学力試験の出題教科・科目等について
の中間まとめ(以下「中間まとめ」という。)」では、高等学校の普通科に係る出題科目の範囲は必修科目に
選択科目の一部を加えることとされているが、これと関連して、専門教育を主とする学科(以下「職業
科」という。)においては必修科目を履修した後、専門の職業科目の選択履修に進むことになるので、この職
業科目についても検討する必要があるとされている。

ところで、職業科における職業科目について検討を行うに当たっては、普通科における選択科目のうちから
出題科目としたものと、内容的にほぼ同様な科目でなければならないとする考え方があるが、基本的にはこの
立場に立ちつつも、職業科の教育課程の履修の流れの中で、「中間まとめ」において出題科目とされている普
通科の選択科目と同様な位置付けにある科目についても検討することが適当であると考えに至った。

また、職業科に係る出題科目を設定する場合においては、いわゆる「代替科目」という取扱いとはせず、普
通科の場合の選択科目と同様に取り扱い、これを履修した者に選択受験させるという措置をとるべきであると
考えられる。

1 職業科に係る出題科目

(1) 職業科に係る出題科目について検討するに当たっては、共通第1次学力試験が「高等学校の段階にお
ける一般的かつ基礎的な学習の達成の程度を判定する」ことを目的としていることから、各学科(農業
科、工業科、商業科等)単位で在学者の全員、又は少なくとも大多数の生徒が共通的に履修する科目で
あることを条件とすることが適切であり、かつ、この試験の出題科目としてふさわしい内容を有してい
ることが必要である。

(2) 職業科における教育課程では、職業科目については、

- ① 各学科の専門の基礎に関する科目で共通的に履修するもの(以下「基礎科目」という。)
- ② 各学科に属する各小学科(例えば農業科における園芸科、林業科等をいう。)の専門の中核的科目
(以下「主要科目」という。)
- ③ 各小学科の専門の専攻的、選択的科目
- ④ 実験・実習

等で編成されるのが通例である。

(1)に述べた趣旨から、出題科目の検討の対象は、原則として基礎科目となると考えられる。

(3) 職業科の基礎科目及び主要科目は、別表(P.7)のとおりである。

職業科に係る出題科目については、普通教科の5教科すべてに対応して設定することが困難であるので、まず、可能な範囲の教科についてだけでも設定することが適当であろうと考えるに至った。

これまで述べた趣旨からみて出題可能な科目としては、次の2科目が当面適当ではないかと考えられる。

工業科 工業数理

商業科 簿記会計Ⅰ 簿記会計Ⅱ

これらの科目の目標、内容等は、次表のとおりである。

工業数理	<p>目 標</p> <p>内 容</p> <p>履修の状況</p> <p>単位数等</p>	<p>工業の各分野における具体的な事象を、数理的、実際に処理する基礎的な能力を養う。</p> <p>(1) 工業の事象と数式 (2) 面積、体積、重量などの積算</p> <p>(3) 量の単位や誤差など数値の取扱い (4) 液体などの流れと圧力</p> <p>(5) 構造物の部材の設計に関する計算 (6) 時間とともに変化する事象のモデル</p> <p>(7) 予測と計画に関する基礎的な手法 (8) 情報と制御に関する基礎的な計算技術</p> <p>4～8単位程度。うち理論的学習にあてるのは3～4単位程度。</p> <p>工業の全学科において第1～3学年でほとんど全部の生徒(1学年当たり約14万人)が、履修するものと見込まれている。</p>
簿記会計Ⅰ・Ⅱ	<p>目 標</p> <p>内 容</p> <p>履修の状況</p> <p>単位数等</p>	<p>「簿記会計Ⅰ」・・・簿記の基本原則を理解させ、商品売買業における取引を正確、明瞭に記録し、計算し、整理する基礎的な能力を養う。</p> <p>「簿記会計Ⅱ」・・・取引についての記帳能力を高めるとともに、企業会計に関する理論的基礎を理解させ、株式会社の財務諸表を作成し、利用する能力を養う。</p> <p>「簿記会計Ⅰ」・・・(1) 企業の簿記 (2) 簿記の基礎 (3) 取引の記帳 (4) 決算</p> <p>(5) 帳簿と伝票</p> <p>「簿記会計Ⅱ」・・・(1) 特殊な取引の記帳 (2) 帳簿組織 (3) 株式会社の記帳</p> <p>(4) 企業会計の基礎 (5) 貸借対照表 (6) 損益計算書</p> <p>(7) 財務諸表の分析</p> <p>「簿記会計Ⅰ」……4単位程度、「簿記会計Ⅱ」……5単位程度</p> <p>商業に関するすべての学科で履修する。Ⅰは第1学年、Ⅱは第2学年で履修。</p> <p>履修者数 Ⅰは100%(約20万人)、Ⅱは95%程度(約19万人)が見込まれている。</p>

「工業数理」は、工業科の基礎科目であり、第1学年から「数学Ⅰ」と並列的に履修されるものとされている。また、必要がある場合には、この科目の内容のうち前半の項目の履修をもって「数学Ⅰ」の履修に替えることも可能とされているが、後半の項目は「数学Ⅱ」と同列的な位置付けで履修されるものであり、出題科目としては、適切であると考えられる。

「簿記会計Ⅰ」及び「簿記会計Ⅱ」のうち、「簿記会計Ⅰ」が基礎科目であるのに対し、「簿記会計Ⅱ」は、基礎科目ではないが、簿記検定試験^{*}との関係で商業科のほとんどすべての生徒が履修することが見込まれ、また、「簿記会計Ⅱ」の内容の前半を「簿記会計Ⅰ」と合わせることによって出題科目として適切な内容を備えることになると考える。なお、「簿記会計」は、従来から第2次試験において、数学の代替科目として出題している大学があり、この場合、それは「数学」と同列的な位置付けで取り扱われている。

* 全国商業高等学校長協会簿記検定試験2級（商業科生徒おおよそ全員が受験）

(4) 上記の2科目のほか、高等学校側からは、農業科の生徒の多数が履修するとみられる「栽培環境」を理科の出題科目に、商業科の全員が履修することになる「商業経済」を社会の出題科目に、家庭科のいくつかの小学科（家庭科、被服科、保育科等）で履修される「食物」及び看護科（衛生看護科）で履修される「看護基礎医学」を理科の出題科目に、それぞれ加えてほしいという要望がある。これらの科目の概要は、次表のとおりである。

栽培環境	履修小学科等 目 標 内 容	<p>農業科、園芸科、生活科、畜産科、林業科（一部）、造園科（一部）。</p> <p>第2学年で2～3単位程度、第3学年で2～4単位程度を履修、履修者数は全体の約70%約4万5千人が履修するものと思われる。</p> <p>栽培環境と作物の生育との関係を理解させ、栽培環境の改善に必要な知識と技術を習得させるとともに、作物栽培の合理化を図る能力と態度を育てる。</p> <p>(1) 自然環境と栽培環境 (2) 栽培環境の諸要素と作物の生育 (3) 栽培環境の改善</p>
商業経済Ⅰ Ⅱ	履修小学科等 目 標 内 容	<p>商業に関するすべての学科。「商業経済Ⅰ」は全員約20万人、「商業経済Ⅱ」は全体の60%程度約12万人が履修するものと思われる。</p> <p>「商業経済Ⅰ」 4単位程度 国民経済における流通の働きを理解させるとともに、売買を中心とした商業活動についての基礎的な知識を習得させる。</p> <p>「商業経済Ⅱ」 4単位程度 国民所得を中心に、我が国の国民経済について理解させるとともに、経済の主要な動向を分析し、把握するための基礎的な能力を養う。また、企業の組織と経営についての基礎的な知識を習得させるとともに、我が国の企業経営の特質について理解させる。</p> <p>「商業経済Ⅰ」 (1) 国民経済と商業活動 (2) 売買 (3) 金融 (4) 物的流通と保険 (5) 企業 「商業経済Ⅱ」 (1) 我が国の戦後経済の概観 (2) 国民所得と経済成長 (3) 経済の変動 (4) 国際経済の動向 (5) 企業の組織 (6) 企業の経営 (7) 我が国の企業経営の特質</p>

食 物	履修小学科等	家政科、被服科、保育科。食物科は「栄養」、「食品」、「食品衛生」及び「調理」を履修するので受験が可能と考えられる。
	履修単位数	12単位程度。うち理論的学習に充てるのは6単位程度 ただし、学科により異なる（家政科10～12単位程度、被服科、保育科4～8単位程度）
	履修学年	第2学年～3学年 ただし、学科により異なる（家政科第1学年2単位程度、第2学年及び第3学年4～5単位程度、被服科、保育科第2学年及び第3学年2～4単位程度）
	履修者数	家政科100% 約4万2千人、被服科、保育科 約90%以上 約8千6百人 計 約5万人と推定される。
	目 標	食物に関する知識と技術を習得させ、食品の選択、献立、調理などを合理的に行い、食生活の向上を図る能力と態度を育てる。
	内 容	(1) 栄養素の消化吸収と代謝 (2) 特殊栄養 (3) 食品の加工 (4) 調理の基本 (5) 献立と調理 (6) 食生活の衛生 (7) 食生活の変遷と充実向上
看 護 基 礎 医 学	履修小学科	衛生看護科
	履修単位数	5単位程度。大半が理論学習である。
	履修学年	第1学年、または第1学年及び第2学年（第1学年2～4単位程度、第2学年3～1単位程度）
	履修者数	全員、約7千5百人と予測される。
目 標	人体の機構、病原微生物、栄養、薬物及び保健に関する知識を習得させ、健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解させるとともに、保健医療活動を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。	
内 容	(1) 人体の構造と機能 (2) 感染と免疫 (3) 栄養と健康 (4) 医療と薬物 (5) 生活と健康	

以上の科目のうち、「栽培環境」は、農業科において相当数の小学科に属する生徒が多数履修するものと考えられ、また、その内容も出題科目として概ね適当と考えられる。しかし、この科目は基礎科目ではなく、また、その内容は、主として大学の農学系学部に対応するものと思われる。

「食物」及び「看護基礎医学」は、その内容は出題科目として必ずしも不適当とはいえないが、基礎科目ではなく、また、その性格からみて大学の特定の学部又は学科に対応するものと考えられる。

「商業経済Ⅰ」は、基礎科目であり、かつ、出題科目として検討の対象としうる内容をもっているが、その履修の位置付けをみると、必修科目とされている「現代社会」を含めて既に出題科目とされている『「現代社会」と「倫理」及び「政治・経済」を合わせたもの』と重複するので、出題科目とすることは必要でないと考える。

- (5) なお、以上取り上げた諸科目以外に、商業科の「経営数学」も内容的には検討しうるものであるが、特定の小学科（情報処理科）の主要科目であり、履修する生徒が少数に限定されるため、出題科目とすることは適当でないと考える。

2 試験方法

- (1) 職業科目を出題科目として設定した場合の試験実施のあり方については、これらの科目を履修した受験生に限って選択受験できるものとし、① 全大学・学部の第2次試験への出願を認めることとする。この方法は、共通第1次学力試験の持つ包括的な性格と、先の「中間まとめ」の基本的考え方に合致するものである。これに対して、② これらの職業科目の選択受験について、特定の大学・学部が指定し、共通第1次学力試験の受験に当たってはこれらの大学・学部を志望する受験生のみ限定するという方法もある。しかし、この方法では少なくとも職業科出身者のうち、共通第1次学力試験においてこの科目を選択する者については、必然的に第2次試験への出願が指定大学・学部のみ制限されることになり、共通第1次学力試験の性格に係る問題が提起されることになろう。
- (2) すでに述べてきた職業科目のそれぞれをみると、「工業数理」及び〔「簿記会計Ⅰ」及び「簿記会計Ⅱ」〕は、その内容からみて、(1)の①の試験方法による実施が可能であると考えられる。しかし、「栽培環境」、さらには「食物」及び「看護基礎医学」は、その履修の状況や内容からみて、これらを出題科目とする場合には、(1)の②の試験方法をとらなければならないと考えられるので、十分に検討することが必要であろう。これらの科目について、それらを適当と考える大学・学部においては、これらを第2次試験において配慮することは、当面実施可能な措置であると考えられる。
- (3) これまで述べてきた考え方に立って、当面次のような実施案が考えられる。

実施案

職業科に係る出題科目及びその試験方法については、次のとおりとする。

- ① 「工業数理」*及び〔「簿記会計Ⅰ」及び「簿記会計Ⅱ(前半の内容を出題範囲とする。)」*〕をさきに「中間まとめ」で公表した出題科目の『数学』の出題範囲に加える。
- ② これらの2科目を履修した志願者に限って、選択受験できるものとし、全大学・学部の第2次試験への出願を認める。

* これらの科目の出題範囲等については、大学入試センターの出題調査研究委員会による調査研究を経て定める。

したがって、「中間まとめ」に公表した『数学』については、次のような表記となる。

数 学

「数学Ⅰ」と、「数学Ⅱ(電子計算機と流れ図を除く。）」、「工業数理」及び〔「簿記会計Ⅰ」及び「簿記会計Ⅱ(前半の内容を出題範囲とする。)」〕を合わせて『数学』として出題し、「数学Ⅰ」の範囲については全問解答、「数学Ⅱ(電子計算機と流れ図を除く。）」、「工業数理」及び〔「簿記会計Ⅰ」及び「簿記会計Ⅱ」〕については、まず、これら三つのうち一つを選び、更にその範囲から問題を選択解答させる。

附 記

共通第1次学力試験における「職業科」に関する出題科目及びその試験方法については、当面、この実施案を発足させるのが現実的であり、その後の出題科目やその措置等については、実施状況等を見て、さらに検討を進めていくことが必要であると考えます。

別表 職業科の基礎科目及び主要科目

[農業]

◎ 基礎科目 農業基礎

◎ 主要科目

農業科	作物	栽培環境 農業機械 農業経営 養蚕 果樹 草花 家畜栄養 飼料 農家経営等
園芸科	野菜	
畜産科	畜産	
食品製造科	食品製造	
農業土木科	測量	
林業科	育林	
造園科	造園計画	
生活科	農業基礎 (家庭一般) 野菜 草花 農家経営 (総合農業)	

[工業]

◎ 基礎科目 工業基礎 実習 製図 工業数理

◎ 主要科目

機械科	機械工作 機械設計 原動機 計測・制御 機械材料
電気科	電気基礎 電気技術Ⅰ 電気技術Ⅱ
電子科	電気基礎 電子技術Ⅰ 電子技術Ⅱ 自動制御
情報技術科	電気基礎 情報技術Ⅰ 情報技術Ⅱ 情報技術Ⅲ システム技術
建築科	建築構造 建築施工 建築設計 建築計画
設備工業科	設備施工 空気調和設備 衛生・防災設備 設備計画
土木科	測量 土木施工 土木設計 水理・土質 土木計画
化学工業科	工業化学 化学工学 設備・管理 化学工業安全 化学工業
金属工業科	金属製錬 金属材料 金属加工
窯業科	窯業技術Ⅰ 窯業技術Ⅱ 窯業
繊維科	繊維・繊維製品 繊維製品製造 繊維・染色デザイン
インテリア科	デザイン史 インテリア装備 インテリア計画 家具生産 木材工芸
デザイン科	デザイン史 デザイン技術 デザイン材料

[商業]

◎ 基礎科目 商業経済Ⅰ 簿記会計Ⅰ 計算事務

情報処理Ⅰ

◎ 主要科目

商業科	
経理科	簿記会計Ⅰ 簿記会計Ⅱ 工業簿記 税務会計
事務科	計算事務 総合実践 文書事務 タイプライティング
情報処理科	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 経営数学
営業科	商業経済Ⅰ 商業経済Ⅱ マーケティング 商品 商業法規 貿易英語 商業デザイン

[水産]

◎ 基礎科目 水産一般 海洋実習

◎ 主要科目

海洋漁業科	漁業 航海 漁船運用 水産法規 漁船機関 機械設計工作 船用電気 無線通信 電気通信理論 無線工学 船舶概要
栽培漁業科	水産生物 栽培漁業 漁場環境 操船
水産製造科	水産製造 水産食品化学 水産食品衛生 水産製造機器

[家庭]

◎ 基礎科目 家庭一般

◎ 主要科目

家政科	被服 食物 保育 家庭経営・住居
被服科	被服製作 被服材料 被服管理 服飾デザイン 手芸
食物科	調理 栄養 食品 食品衛生 公衆衛生
保育科	保育原理・技術 小児保健 児童心理 児童福祉

[看護]

◎ 主要科目

衛生看護科	看護基礎医学 基礎看護 成人看護 母子看護 看護臨床実習
-------	------------------------------------